

## 上野から浅草、そして佃・月島へ

上野の東京都美術館で開催されていたフェルメール展に出かけたが、朝早くから長蛇の行列のため早々と諦め、国立西洋美術館のハンマースホイ展に急ぎ変更した。じっくりと鑑賞でき堪能できた。

西村幸夫『風景論ノート』は上野について次のように指摘する。「歴史と文化は上野のどこに行っても充滿している。むしろそれらをどうやってわかりやすく括り、博物館や美術館の集中する山ゾー

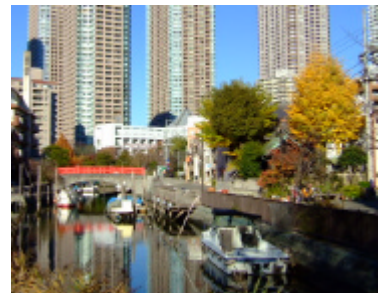


ンだけでなく、周辺のこれまた魅力的な地域と結ぶかという課題である。現状では、JR上野駅の公園口から上野公園にやってきた来訪者の過半数が、目的の展覧会などを見終わったら、また---公園口から帰ってしまうという。地区内外の回遊性の確立が最大の課題なのである。」東京都は上野地区をモデルに観光まちづくりを提唱している。

上野地区内外の回遊性をじっくり楽しみたいものだ。今回は地下鉄・大江戸線に乗って観光客で賑わう浅草から清澄庭園に向かった。広々としてよく整備された庭園は、「緑陰の水面に江戸からの歴史」が映し出されていた。近くの深川江戸資料館でも「こころ通う人情の町、深川」を味わうことができた。



それから佃に向かい、超高層マンションを映す佃堀界隈を散策した。並んで買った佃煮もじつに



美味しかった。佃から月島に足を伸ばし、人気のもんじゃ焼店に直行した。狭い店内は満員だったが、「なんじゃもんじゃ」と言いながら、熱々のもんじゃを口にしたが、これまた美味であった。

(2009年1月4日 記)